第１０７号
２０２４年３月

風

発　行
群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大友町１－１３－１２
学校生協会館３階
『風』はホームページでもご覧いただけます
https://gunma-ccu.jp/
Eメール：post@gunma-ccu.jp

7月１２日(水)　運営委員会で男女共同参画の学習会を開催

群馬県男女共同参画室　布見室長に講師となっていただきました

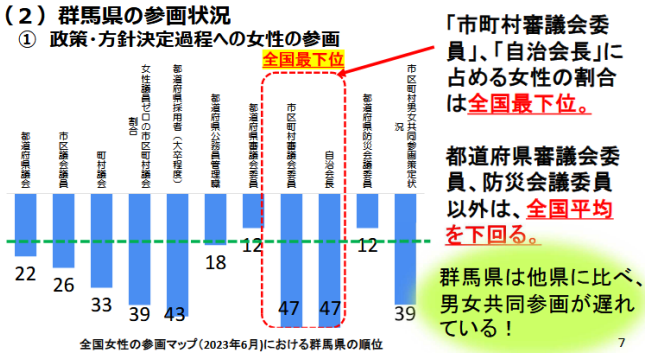
定期総会後の第１回運営委員会では、新たな運営委員も加わったため、群馬県男女共同参画室の布見室長を講師としてお招きし、「男女共同参画学習会」を開催しました。日本は先進国の中ではジェンダーギャップ指数が低く、男女共同参画が遅れています。遅れている日本の中でも群馬県は遅れていることを実感しました。

男女共同参画社会とは

男女共同参画社会　＝　Gender Equal Society

＝　男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、**性別にかかわりなく**、その個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現は、緊要な課題となっている。　（男女共同参画社会基本法前文）

1999年公布



１０月１２日(木)　2023年度 群馬県生協大会に参加しました。

女性協機関紙「風」を拡大印刷して掲示し、バックナンバーの配布を行いました。

１０月１２日（木）に、昌賢学園まえばしホールで開催された群馬県生協大会では、記念講演として、河村正剛氏（タイガーマスク運動の発端となった方）の記念講演と、会員生協取組報告として、生活クラブ生協による「ワーカーズ・コレクティブ運動と、ステーションでの拠点づくりの試み」、はるな生協による「生活困窮者支援の取り組み」について報告いただきました。

それぞれの報告は、地域に根差した取り組み内容となっており、参加者からは大変参考になったとの声が寄せられました。

今年の生協大会では、各会員から広報展示を行い、女性協議会からは、機関紙「風」の拡大展示とバックナンバーの配布を行いました。

女性協議会展示コーナー

女性協から3名が福島視察バスツアーに参加

12 月 7 日(木)に群馬県生協連と群馬県消費者団体連絡会が福島支援を目的に合同で企画した、「福島視察バスツアー」に女性協議会から 3 名(全体で 15 名)参加しました。

日帰りのため、多くの場所を視察することはできませんでしたが、「震災遺構　浪江町立請戸小学校」と「東日本大震災・原子力災害　伝承館」を見学しました。

震災遺構　請戸小学校

当日は天気が良く、12月としては暖かい日でしたが、伝承館の研修であるフィールドワークの時だけ雨に降られました。

かつて田畑だった場所は雑草が伸び放題となっていて、いのししなど野生動物の住処になっているところもあります。また、帰還困難地域は、建物はあるのに無人の住宅街となっており、避難解除となった地域でも多くが空き家となっていました。震災から12年が経ちますが、元の生活には程遠い状況で、あらためて原子力災害の恐ろしさを感じました。

【参加者の感想】

大変良い視察と学習でした。震災から早12年ですが、私たちにできることは何かを考える機会となりました。復興応援や支援を継続してこれからもやっていき、少しでも福島のお手伝いをできる力になりたいと強く思いました。 本当に震災の傷跡は深く、まだまだ行き届いていないことも胸が痛みます。時間の経過とともに忘れられがちになる現状ですが、決して決して忘れてはならないことと思いました。今回の福島視察に参加させていただき、福島の方々の辛く大変な体験を今までとは違う重さを感じることが出来た気がします。テレビでの映像や新聞では知りえない五感を通して感じる痛みがありました。この痛みを忘れずこれからも福島復興のために自分に実施できることを実施していこうと思います。	震災遺構の浪江町立請戸小学校は、1998年に建替えが完了したそうで、かわいらしい装飾があちらこちらに見られた建物は、1階は津波による被害をあらわにし、2階は展示物や映像を見ることが出来る遺構となっていました。原子力災害伝承館の見学後のフィールドワークで見えた請戸小学校は海からの距離は 300 メートルと近く、避難場所である大平山霊園までの道のりは遠くここまで避難してくるのは大変だったと思いました。また、双葉町の原発爆発による避難地域の避難解除はいまだに15%で生活するには不自由なことが多いことや、富岡町はメガソーラー発電をし、東京に電力を送っていると説明がありました。「皆さん避難場所や、避難時に家族と会うための話し合いをしていますか？災害があってからでは遅いんですよ」とガイドをしてくださった方が繰り返し仰っていたのが心に残りました。
震災から12年、初めて福島を訪れました。バスの中から見ても人の住んでいる家と住んでいない家、こんなにハッキリわかるとは思いませんでした。住みたくても住めない現状をガイドの方から聞き、切ない気持ちになりました。 いつどこで起きてもおかしくない災害に備え、改めて気持ちを引き締めなければならないと感じました。	

女性協議会特別企画　青木佑太氏による講演会を開催

１月２３日（火）県生涯学習センターで特別講演「人とのつながり」～子どもが入院するとその時家族は～が開催され、各生協から約５０人の役職員が出席しました。講師は作業療法士の青木佑太氏で２０１９年長男一馬君が白血病で１年の闘病の末４歳で亡くなった経験をもとに、キッチン･カーや子ども食堂･遊び場などを運営するようになった経緯を講演していただきました。 参加者は涙を浮かべながら聞き入り多くの質問を寄せていました。

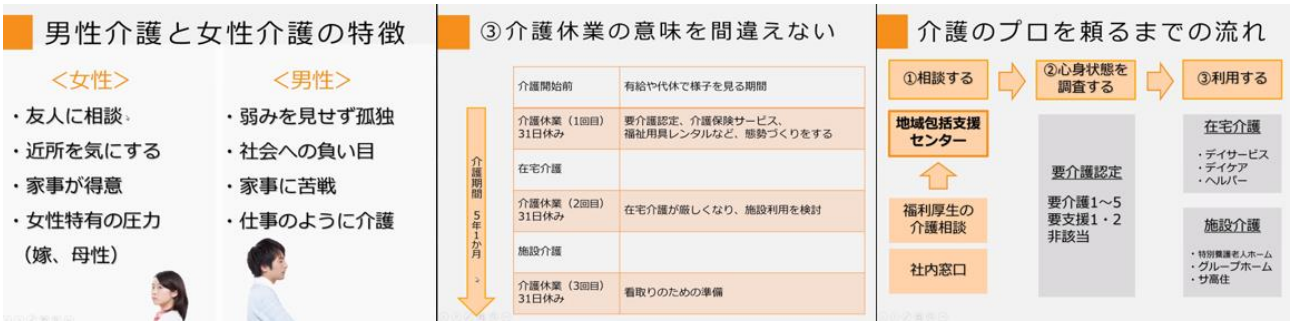
参加者の感想

☆彡一馬君の人生は素晴らしいですね。また、親子親戚含め、とても悲しい出来事を乗り越え「人生を楽しく生きる」に変える力がすごいと思います。何か行動したいと思うこともありますが、「何か」で終わってしまい具体化できません。具体的な支援を実行できることが素晴らしいと思います。
とても良いお話を聞くことが出来、良かったです。ありがとうございました。

☆彡小児医療センターに子供が小さい時に発達や歯科に通っていました。お子さんが長期に入院していたお友達もいて、食事の大変さや付き添いの大変さを聞いていました。食事の提供だけではなく気持ちを理解してくれる人がキッチンカーにいてくださるということも、付き添いパパママにとってとても心強いと思います。この活動が全国に広がっていく、繋がっていくことを願っています。
一馬君と一緒でうちの子供（息子）もウルトラマン大好きです。支援学校に通っていますが、元気に頑張っています。

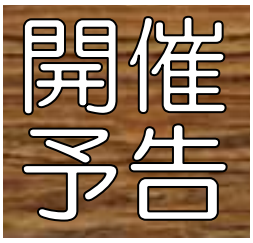
日生協中央地連テーマ学習会（オンライン）に参加

２月６日（火）日生協中央地連主催のに学習講演会がオンラインで行われ、「誰もが当事者、ワーク･ライフバランスを介護の視点から考える～男女がともに介護を担える環境づくりと心もち～」というテーマで、講師は工藤広伸氏が行いました。
工藤氏は介護作家、ブロガーで、現在遠距離介護を行っており、自身の経験を情報発信しています。
女性協議会からは２名の委員が参加しました。



学習講演資料の抜粋

講演の中で工藤氏は、介護離職防止のコツとして、一人で悩まず介護のプロに相談すること、普段の見守りから介護の準備を進めることなどを挙げました。また、家族（介護者、要介護者含め）がお互いの意志・希望を確認するためのエンディングノートの作成が大切と発信しました。



群馬県生協連女性協議会では、３月２７日（水）１４時から、「成年年齢引下げと消費者被害」をテーマとした学習講演を行います。これから新成人を迎える方だけでなく、すでに大人の方、子供が成人の方、など幅広い方を対象とした学習会です。

参加申込は、群馬県生活協同組合連合会ホームページから受け付けています。

URL： https://gunma-ccu.jp

春休み学習企画（オンライン開催）

成年年齢引下げと消費者被害について

成人すると、様々な契約が自分の判断で行えるようになり、参政権も与えられます。これは、責任が発生することでもあります。社会には様々な落とし穴がありますが、成人すると、これらに自分で対処しなければなりません。

これから成人となる方・すでに成人の方、また、親御さん、大人になることの法的な意味、私生活上の法的なリスク、対処などを学んでみませんか。親子での参加も歓迎します。

開催日時 ： 2024年3月27日（水）14:00～16:00
講　　師 ： 松井 隆司 弁護士
申込締切 ： 3月22日（金）
募集人数 ：先着100名まで（年齢制限はありません）

※オンライン開催ですが、会場参加も可能です（10名程度）

申込用コード

参加申込方法

① 群馬県生協連ホームページ、もしくは、右上の二次元バーコードから申し込めます。
https://gunma-ccu.jp/publics/index/350/

② 会場での参加も可能です。会場での参加希望の方は、群馬県生協連までお問い合わせください。
会場住所：〒371-0847 前橋市大友町 1-13-12 学校生協会館3階
電話番号：027-212-0152

<講師紹介>
昭和 59 年，前橋生まれ。前橋南高校，千葉大学，法政大学法科大学院を経て，　平成 24 年弁護士登録

【編集後記】

今年最初の運営委員会は、1月17日（水）食事会を兼ねて「道の駅まえばし赤城」の会議室を借りて行いました。各自食事を準備し、年末年始のエピソードを報告し合いながら楽しく過ごしました。もちろん運営委員会もしっかり行いました。

今年もみなさまに「参加してよかった」という企画を検討していきます。女性協の活動へのご協力よろしくお願いいたします。